

競技運営マニュアル

1 競技会開催までの準備

1-1 競技会場の確保

大会開催が決定したなら、最大出場チーム数を基に競技会場を確保する。

1-2 大会申し込み

大会要項、大会参加申込書を作り、参加チームに郵送し、締切に間に合うよう申し込みを完成するように参加チームに徹底する。

※大会申し込みに関する注意事項

- ①申し込みに必要な書類及び参加料は、それぞれの締切期日までに愛知学連事務局に必着のこと。尚、申込締切期日に間に合わない場合は受け付けないことを原則とする。
- ②選手及び背番号の変更は学連事務局が指定した締切日時までとする。
- ③大会申込書やその他の添付書類の記載欄にはもれなく記入すること。

1-3 抽選の準備

代表者会議において貼り出す組み合わせ表（見やすいように拡大した物）、抽選用のチーム名、抽選棒を作る。

1-4 大会プログラムの作成

競技会を開催するにあたって下記項目を基準に大会プログラムを作成し、参加チーム、役員及び報道関係者に配布する。 ①目次 ②

挨拶

- ③役員紹介 ④大会日程 ⑤開・閉会式々次第 ⑥組み合わせ表 ⑦出場チーム一覧表
- ⑧選手名簿（必要に応じてチーム写真）⑨会場案内図 ⑩過去の成績 ⑪広告（ボールメーカー等）
- ⑫大会本部の連絡先

2 競技組織

2-1 競技委員会の組織（大会に応じて適宜変更する）

競技委員長・競技副委員長・男子部競技委員長・女子部競技委員長

競技委員学生担当主任・男子部競技委員学生担当主任・女子部競技委員学生担当主任・競技委員

2-2 競技会での競技委員会の仕事内容

競技委員は競技会において競技委員長、コート主任、会場主任とにわかれ、それぞれ以下のような仕事をする。

1. 競技委員長：競技委員長は、競技会の運営並びに進行をつかさどり、会場の変更、競技会の中止、延期等競技運営に関する一切の問題について最終決定をする。
2. コート主任：コート主任は大会運営中に以下の仕事をする。
 - ①コートを設置し、コートに関する全ての点検確認を行なう。
 - ②ネットの高さ、張り具合、ネットの両端の処理。
 - ③サイドバンド、アンテナの位置点検。
 - ④試合開始 30 分前に使用球の気圧測定をし、その後毎試合間にもこれを行なう。
 - ⑤受付時にエントリー用紙をチームに渡し、前試合の 1 セット目終了までに大会本部に提出してもらう。
 - ⑥エントリー用紙と参加申込書を照らし合わせ番号、選手名に誤りがなければ I F 用紙に貼る。（貼る位置はプログラムと同じく左右間違えないようにする。） ※選手変更は認めない。幹部についてはエントリー用紙提出までに正式届出用紙で届け出のあった場合のみ登録されている者の中から代理を認める。

⑦プロトコールの時間設定をする。

※設定時間がある場合はそれに従う。但し、前試合の終了ホイッスル後、最低10分を要する。

※アナウンスがある場合に限り他コートとプロトコール時間を合わせることもあるが、その時は前もって主審、副審、両チームの監督又は代表者に伝える。

⑧得点板にチーム名をプログラムと左右同じように貼る。(コイントスによるコート選択とは関係ない。)

⑨次の試合の補助員をプロトコールの5分前までに集める。

※補助役 8名：主審 (1名)、副審 (1名)、ラインジャッジ (4名)、IF (1名)、点示 (1名)

⑩試合間にライン、支柱等コート内をチェックし、ラインが剥がれていたら修復する。

⑪IF記入が終了したら戦績表と組み合わせ表、競技ノートにIFを参照にして正確に点数を記入する。トーナメント表に記入する場合は勝ちチームを左、負けチームを右に記入する。

3. 会場主任：会場主任は大会運営中に以下の仕事をする。

①競技会場等の施設の統括。

②本会場における競技会名称の「看板」及び「旗」の位置を確認する。

③競技場内の諸規則（採光、換気等）に留意する。

3 競技会の運営

3-1 代表者会議

代表者会議は原則として試合前日に参加チームの代表者を集めて大会委員長の主宰の下に次の次第により開催する。

式次第

①挨拶：大会委員長 ②競技上の確認（注意事項）：競技委員長 ③審判上の確認（注意事項）：審判委員長

④総務上の確認（注意事項）：総務委員長 ⑤他の連絡事項 ⑥質疑応答

3-1-I 代表者会議における競技上の確認事項

代表者会議において競技委員長は下記事項を参加チームに確認する。

①競技日程について ②競技開始時刻について ③試合の方式、3位決定戦の有無について ④選手変更の手続きについて

⑤体育館の開館時間について ⑥使用球について

3-1-II 代表者会議におけるエントリー変更

申し込みの変更（部長・監督・コーチ・マネージャー・トレーナー・選手及び背番号に関する変更）は、所定の用紙にて代表者会議の際に受け付ける。それ以後の変更は一切認めない。

3-2 競技時間

①競技時間は、3セットマッチの場合は1試合1時間を基準とし、5セットマッチの場合は1試合1時間30分を基準として、各コートの開始時刻をプログラムに記載することを原則とする。

②競技日程の編成は、3セットマッチの場合は1チーム、1日3試合、5セットマッチの場合は1チーム、1日2試合を限度とする。

③準決勝、決勝は開始時刻を明記する。尚、各試合の開始は記載された時刻より遅れることはあっても、それより早く開始することは出来ない。

④競技会における試合時間の表示は、ホイッスルの時間とする。

⑤プロトコール開始は、3セットマッチの場合は試合開始時刻の11分前、5セットマッチの場合は試合開始時刻の15分前とする。

3-3 競技会の形式

競技会の形式は、通常①トーナメントを中心とした形式 ②リーグ戦形式に大別できる。そのいずれによるかは、競技会の性格、施設、時間、及び参加チームなどの諸条件を考慮して決定する。

①トーナメントを中心とした形式

- ・愛知大学男女バレーボール選手権大会

参加チーム数が「2」の累乗でない場合は、第1回戦でいくつかの不戦勝枠を作る。不戦勝枠の数は参加チーム数に近くてより大きい「2」の累乗から、参加チーム数を引いたものである。試合順序はコート数によって異なるが、原則として高シード位置より順に設定する。但し、あくまでも連続試合を避ける。

②リーグ形式

- ・愛知大学男女バレーボールリーグ戦

男女最下部については原則としてリーグ戦方式で行うが、チーム数によってはトーナメントを中心とした試合方式に変更しても構わない。

1 リーグ5チーム制：総当り戦

	第1日目	第2日目
1 試合目	1-5	4-5
2 試合目	2-4	1-3
3 試合目	3-5	2-5
4 試合目	1-4	3-4
5 試合目	2-3	1-2

②-1 当該リーグの参加チーム数に応じて、臨機応変に部を統廃合してリーグを開催する。

②-2 リーグ形式における試合順、補助員、当番校の決定方法（数字は前回当該大会の順位）

※ 各部、最終日の最後の試合を1-2とし、同一チームが2試合連続して試合を行わないようにする。又、最低でも1試合はあけるようにする。遠隔地のチームの大学の授業などを考慮して試合順を入れ替えてもよい。

※ 原則と違う日程・組み合わせで実施する場合、学連競技委員会に報告することを前提とする。

◎補助員

試合終了直後のチームが次の試合の「補助員」となる。補助員は「審判校」又は「本部運営校」となり、試合の運営を円滑にするように努力する。尚、原則として、第1試合の補助員は当該日の第3試合の試合予定校とする。

◎当番校

できるだけ会場校又は会場に近いチームで、なるべく第1試合から最終試合まで会場にいるチームにやってもらう。尚、当番校は、現実的には試合会場の準備及び後片づけを担当する学校であることから、試合会場の準備は当該試合日の第1試合の本部運営校、審判校が、後片づけは最終試合の審判校、本部運営校が担当するのが望ましく、これについては各代表校が、事前に各校できるだけ均等になるよう考慮し決定する。

②-3 リーグ戦形式の順位決定方法

次の採点法を用いて順位を決定する。勝ち点が多いチームを上位とする。

勝者—2点、敗者—1点、棄権または没収試合—0点

この方法によって、2つあるいはそれ以上のチームが同点となった場合は、下記の方法によって順位を決定する。

I セット率（取得したセットの総数を、喪失したセットの総数で割ったもの）が高いほど高順位とする。

$$\text{セット率} = \frac{\text{全試合の取得したセット総数}}{\text{全試合の喪失したセット総数}}$$

II Iの計算によってもなお同順位となった場合はポイント率（全試合の総得点数を全試合の総失点数で割ったもの）が高いほど高順位とする。

$$\text{ポイント率} = \frac{\text{全試合の総得点数}}{\text{全試合の総失点数}}$$

Ⅲ IIの計算を行ってもなお同順位がある場合、次の方法による。

- (a) 2チームの場合は、相互の試合の勝チームが上位となる。
- (b) 3チーム以上の場合は、当該大会の大会委員長、競技委員長、審判長が順位の決定方法を決定する。

③最下部の運営指針

下記の運営方法を指針とするが、所属校の話し合いで、変更を認める。ただし、遠方からの参加校の事情を十分に考慮した内容であることを前提とする。

- 1.最下部が10チームを越えた場合、あらたに新リーグ（5チーム以上）を新設することを原則とする。
ただし、新設後でも、棄権チーム等が多い場合等、状況に応じて、以下の方法でリーグを開催する。
- 2.最下部が6チームの場合、前季の順位を基準に、均等になるように2グループに分け、予選リーグ、順位決定リーグ方式で開催する。（2日間での開催を原則とする。）
- 3.最下部が7チームの場合、前季順位を基準に、均等になるように2グループに分け（3チームと4チームになる）、予選リーグ、順位決定方式で開催する。（2日間での開催を原則とする。）
- 4.最下部が8チームの場合、前季の順位を基準に、均等になるように2グループに分け、予選リーグ、順位決定戦方式で開催する。（2日間での開催を原則とする）
- 5.最下部が9チームの場合、前季の順位を基準に、均等になるように3グループに分け、予選リーグ、順位決定リーグ方式で開催する。（2日間での開催を原則とする）

3-4 シードについて

競技会のシードの原則

- ①前回当該大会を資料とし、主として第3位以上のチームを対象とする。
- ②当該大会に関連する近接の大会成績を尊重する。
- ③各競技会におけるシードチーム数は最大8チームを原則とする。
- ④シードチーム名、及びそのシード位置は代表者会議の際、組み合わせ抽選に先立って当該大会競技部より発表される。

3-5 抽選方法

【抽選の原則】組み合わせの抽選は当該大会の競技部部長が主宰して下記項目により、参加チームの代表が定められた順位に従ってこれを行なう。

※トーナメント戦（愛知オープン等）において、同大学から複数チームが参加している場合はそれらのチームを次のようなゾーンに分け、同大学同士が同じゾーンにならないようにする。

2チームの時	2分の1ゾーン
3～4チームの時	4分の1ゾーン

※抽選順序は申込書の受付順を原則とするが、必要があれば抽選順を抽選によって決定してもよい。

3-6 入替戦

各部男女共、1位と5位が自動入替。